

科目名	質的調査の方法			ナンバリング	SOC242	授業形態	講義
対象学年	2 年	開講時期	前期	科目分類	選択	単位数	2 単位
代表教員	菊池真弓	担当教員					

授業の概要	質的データを収集する方法や分析のための技法について基本的な事項を説明できる。また、質的調査の多様性や調査実施上の注意点を認識した上で、受講者が自らの問題関心に基づいて、調査を企画、実施できる能力を身につけることを目標とする。						
到達目標	1.質的調査におけるデータ収集および分析技法の特徴について説明することができる。 2.質的調査における「主観性」と「客観性」、「信頼性」と「妥当性」の問題について説明できる。 3.フィールドワーク、インタビュー調査などを実践して、質的データの分析・考察を加えることができる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	本授業は、社会調査士資格のF科目となるため、受講までに資格認定「社会調査の基礎」、「調査の設計と方法」を履修していることが望ましい。また、体験型のワークが多い授業なので、出席はもちろん、授業内で実施する課題に積極的に取り組むこと。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
	○	2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	○	3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
		5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1.質的調査におけるデータ収集および分析技法の特徴について説明できる。 2.質的調査と量的調査のもつ対照的な特徴について説明できる。 3.質的調査の体験を通して、データ収集・整理ができる。	1.質的調査におけるデータ収集および分析技法の特徴とそれぞれの内容について説明できる。 2.質的調査と量的調査のもつ対照的な特徴をあげて、それらの違いについて説明できる。 3.質的調査の体験を通して、データ収集・整理ができ、それらの結果の分析・考察を加えることができる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート	○	○			○		40%
宿題・授業外レポート	○	○	○		○		50%
授業態度・授業への参加			○	○	○		10%

課題、評価のフィードバック	1.毎回の質問や感想などについては、次回の授業でコメントする。 2.授業内課題、最終レポートについては、評価基準を示した上で、返却する。
---------------	---

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	ガイダンス	社会調査の方法を学ぶことの目的、本講義の概要および進め方について理解する。	
	第2回	質的調査とは何か	量的調査との比較を通して、質的調査におけるデータ収集及び分析技法の特徴を説明できる。	
	第3回	質的調査における認識論	質的調査における「主観性」と「客観性」、「信頼性」と「妥当性」の問題について説明できる。	
	第4回	質的データの分析法	参与観察法、フィールドワーク、ライフヒストリー分析、会話分析、ドキュメント分析、内容分析、グラウンデッドセオリー等の質的データの分析について説明できる。	
	第5回	調査技法1:フィールドワーク(1)	フィールドワークの諸技法について基本的内容を説明できる。	
	第6回	調査技法2:フィールドワーク(2)	フィールドにおいて観察を行い、メモを適切に取ることができる。	
	第7回	調査技法3:フィールドワーク(3)	フィールドノーツを作成することができる。	
	第8回	調査技法4:フィールドワーク(4)	グループでフィールドワークを実践し、その内容をまとめ、報告できる。	
	第9回	調査技法5:インタビュー(1)	インタビューの諸技法について基本的内容を説明できる。	
	第10回	調査技法5:インタビュー(2)	インタビューの実践にまつわる具体的問題、倫理的問題について議論することができる。	
	第11回	分析技法1:ライフヒストリー分析(1)	ライフヒストリー分析の基本的な考え方を説明できる。また、個人のライフヒストリーについてのインタビューを行うことができる。	
	第12回	分析技法2:ライフヒストリー分析(2)	ライフヒストリーのインタビューから個人史を整理し、それらについての分析・考察を加えることができる。	
	第13回	分析技法3:グラウンデッドセオリー	グラウンデッドセオリーの基本的な考え方を説明できる。	
	第14回	分析技法4:会話分析	会話分析の基本的な分析技法を説明できる。	
	第15回	まとめ	これまでの講義で理解、習得した質的調査の技法をふまえ、各自の問題関心に応じた調査を企画できる。	
	試験	試験は実施しない。		
授業の進め方		質的調査の特徴や諸技法については、教科書・配布プリントに従って授業を進める。また、毎回の小レポートの提出とともに、授業時間内に体験型のワークを実施してレポートを提出する。なお、試験は実施せず、フィールドワークに基づく最終課題レポートを提出してもらう。		
授業外学習の指示		【予習】教科書の該当箇所を熟読し、疑問点を明らかにしておくこと(90分)。 【復習】教科書・配布プリントを復習しながら、理解できなかったところについてはさらに調べること(90分)。 (授業外学習時間: 毎週 180 分)		

教科書	佐藤郁哉『フィールドワーク 増訂版口書を持って街へ出よう』新曜社、2006年、2,200円、ISBN978-4-7885
参考書	適宜、授業内で紹介する。
参考URLなど	適宜、授業内で紹介する。
その他	